



●NO. 526 2012/ 第3例会●



テーマ 『 Let' s Enjoy Rotary 』

- 創立日：S33年1月10日 ●RI加盟認証日：S33年2月6日
- 会長：杓名俊裕 ●会長エレクト：大見 宏 ●副会長：石川 博 ●幹 事：永谷文人
- クラブ会報：神谷 研 寺田孝司 恒川憲一
- 例会日：毎週金曜日 12：30～13：30 ●例会場：碧海信用金庫本店3F／安城市御幸本町15-1
- TEL：0566 - 75 - 8866 ●FAX：0566 -74- 5678
- Email：[anjo-rc19580206@katch.ne.jp](mailto:anjo-rc19580206@katch.ne.jp) ●HP：<http://www.anjo-rc.org>

第2667回例会

2011年12月16日(金)12時30分から13時30分  
 司会者：山口研君  
 ソング：「手に手つないで」  
 斉 唱：「四つのテスト」  
 卓上花：ブルースター、スイートピー  
 ゲスト：勝又佑記（かつまたゆうき）様  
 中部経済新聞社・刈谷支局記者  
 ビジター：なし

出席報告

出席委員会 福田雅美君  
 会員57名 出席義務者44名 出席35名 欠席9名  
 内出席免除者の出席10名 出席率85.18%  
 修正出席率12月2日第2665回例会 100%

挨拶 野村聡君



この度、体調不良のため、退会させていただきます。

1975年入会以来36年間、皆様方の交誼とご指導に深く感謝申し上げます。心より御礼申し上げます。少額ですが、ニコボックスに協力致します。安城ロータリークラブの益々の発展を祈念致します。（ニコボックスメッセージより転載）

会長挨拶 会長 杓名俊裕君



(連絡事項)

- カンボジア井戸掘りへの参加者が決定しました。丸山光夫君、杓名俊裕君、永谷文夫君、富岡里美君、石川義典君、奥田法行君、市川護君、成田孝則君、恒川憲一君の計9名です。

- 小野田真代さんが、12月25日に入会されます。
- 12月25日(日)、クリスマス家族会を午後5：00（午後4：30受付開始）から名古屋マリオットアソシアホテルにて開催します。
- その他の事項
  - ① ホノルルマラソン開催  
12月11日午前5時スタート（現地時間）、22,615人参加（内、日本人12,360人）で開催されました。我クラブの成田孝則君が参加し完走しました。



- ② 今年の締め括りは、杉浦製粉の年越しそばどうぞ。

(あいさつ)

本日の元気印企業をご紹介します。  
 たゆまぬ改善と技術革新を進める地元企業の株式会社マキタをご紹介します。  
 経営方針は、堅実かつ積極的な経営と質実剛健です。  
 代表取締役社長は後藤昌彦氏（かとう まさひこ）（65歳）です。

㈱マキタの社歴は、1915年故牧田茂三郎氏が名古屋で個人経営の牧田電機製作所を創業し、1938年個人経営から株式会社に法人成（1991年㈱マキタに社名変更）しました。1945年安城市住吉町に移転、1958年日本初の

1月の予定

- 1/6 新年初例会 1/13 年男放談（辰年）
- 1/16-19 カンボジアへ井戸掘り事業
- 1/22 伊勢神宮参拝（1/20例会変更）
- 1/27 卓話担当 大見宏君



携帯用電気カンナの製造販売を始めました。1962年名証二部へ上場（1970年東証一部へ）を果たしました。1963年には無借金会社となりました。1989年に後藤氏が代表取締役社長に就任しました。1995年に中国で電動工具の生産を開始し、現在の総生産台数は2,317万台（2011年3月期）で、内中国工場では1,495万台（65%）を生産しています。

2011年3月期の財務指標は、売上高2,726億円、経常利益423億円、資本金242億円、時価総額3,755億円（東証一部）です。

創業当時はモーターの修理・販売業を営んでいましたが、モーターの小型化に取り組み、自社商品開発へと転換に成功し、1959年電動工具メーカーとして歩み始めました。

- ◆ 宇宙ステーション現場で“マキタ”
- ◆ クリントン元大統領が使っていた“マキタ”
- ◆ ロックバンドがギターを弾くのに“マキタ”

世界の“マキタ”に成長し、現在は売上の8割が海外市場です。

1958年日本初となる携帯用電気カンナを開発、2006年世界初となる充電式4モード切替（・振動ドリル・インパクトドライバ・低/高速ドリル・16段切替ドライバ）を開発しています。

本日のまとめは、「5つのテスト」（故 後藤十次郎氏座右の銘 岡崎市名誉市民）をご紹介して締めます。その言葉は“おいあくま”です。

「お」おこるな、「い」いばるな、「あ」あせるな、「く」くさるな、「ま」まけるな、です。

#### 幹事報告 幹事 永谷文人君

- \* 例会終了後次年度理事会を会議室で行います。
- \* 2/19(日)当クラブホストによるIMが行われます。全員登録とさせていただきますが、懇親会での食事の都合上出欠確認をさせていただきます。
- \* 7月に行いましたIAC年次大会の報告書ができました。
- \* 12/25(日)クリスマス会の会場を17階コスモス→16階アゼリアに変更しました。

#### 委員会報告

- ・ 国際奉仕委員会 市川護君  
カンボジア井戸掘り事業実施の案内

- ・ 雑誌委員会 杉浦實君  
“ロータリーの友” 12月号の記事を紹介しました。

#### ニコボックス報告 藤井英樹君

本日のニコボックスメッセージの紹介。

#### 卓話

担当者：プログラム委員会

卓話者：勝又佑記様

中部経済新聞社・刈谷支局記者

テーマ：「新聞記者の取材活動について」



まずは中部経済新聞社の紹介を少しさせていただきます。当社は、愛知、岐阜、三重3県と静岡県浜松市までを発行エリアとする新聞社です。紙面のニュースは、経済記事のみを扱っており、このような発行形態を「ブロック経済紙」と呼び、全国でも唯一のブロック経済紙の新聞社になります。

本日は、新聞記者の取材活動について、ご紹介させていただきます。新聞を発行する手順として、取材活動で情報を集め、その情報を編集、記事製作し、その記事を紙面に割りつけます。その後、印刷を行うという流れです。取材活動は、一番最初の仕事になります。良い情報を集めなければ、良い紙面製作を行うことができず、記者の仕事の中でも大変重要な仕事になります。

この取材活動は、より正確に、より早く、よりおもしろい情報を集めることが基本になります。取材方法も多様ですが、企業取材の大半は、アポを入れて会社訪問することです。今回は、3つのキーワードでこの取材活動について紹介させていただきます。

まずは①「犬も歩けば棒にあたる」。先輩記者からの指導でよく言われました。まず取材活動をスタートする前に、ネタ集めを行います。では、ネタはどこにあるか。実は分からない状態からのスタートです。このため、まずは色々なところに足を運びます。すると自然とおもしろいネタが集まってくるようになります。このネタをもとに、さらに情報を集めることができます。





当たり前なのですが、実は大変時間がかかり、根気も必要になります。一方、取材活動の時間は無限ではなく、やはり限られた時間の中で行う必要があります。このため、より効率的にネタを集めるために、色々な方との「パイプ」作りを行います。特にネタが集まりそうな場所には、よく顔を出すようにします。

また、一つのネタも、多方面から集めることで、より正確な見方ができるようになります。例えば、A社がB社を子会社化する際のことで、A社は子会社化の狙いを「業務の効率化のため」と説明しました。ただ、その説明では腑に落ちません。そこで、A社やB社と取引、関係のある企業を回り、雑談などで情報を集めます。この情報集めを通じて、A社の本音に近づくことができる、ということです。



次に、②「親密性平衡理論」。CBCの若狭敬一アナウンサーに教えて頂いた理論です。例えば、私がC子さんを好きだとします。好きだ、という雰囲気などで、C子さんも私に好意を抱きやすくなる、という理論のようです。取材活動でも、同じように「取材相手に関心を持つ」ことを心がけます。記者と取材相手では、互いに好意を抱く関係ではありませんが、互いの信頼関係を築くために重要になります。

また例を挙げますが、C社が工場を閉鎖する時のことです。半年以上前に「生産体制の再編があるだろう」と予想しました。そこから、C社の経営者や役員、現場の方に取材活動をしました。当然、相手に関心を持ち、さまざまなお話をさせていただきます。すると「こいつには話してもいいだろう」と思ってくれたのかもしれません。経営者の方がぼろっと工場閉鎖のことを話してくれました。当然、C社にとって良いお話ではありませんでしたが、信頼関係を築いたことで話してくれたのだと考えています。

最後に、③「夜打ち朝駆け」。新聞の業界用語です。夜回り、朝回りと呼ぶこともあります。多忙で昼間に取材時間をとってくれないような企業経営者に会う場合や、急を要する取材で企業経営者をつかまえる場合など

に、その経営者の自宅や会社前で待ち、話を聞くことを指します。とても辛く、先方の奥様にもご迷惑をお掛けするため、できたらやりたくない仕事のひとつです。ただ、取材活動の基本の一つが「より早く」ということで、時々必要になる仕事になります。

ただ、この「より早く」という基本も、大きな問題を抱えているように思います。早さの基準が「他紙より早く」という観点のため、読者不在の取材活動に陥りかねないためです。他紙より1日早く掲載することが、読者にどれだけ有益性を生み出すかは疑問です。間接的に記者の士気を高めることもあるといわれる場合もありますが、やり方はいくらでもあるように思います。

日本新聞協会の調べによると、日本の新聞の発行部数は約4932万部。ここ最近は慢性的に減り続け、2000年に比べて約1割部数は落ち込んでいます。若者の活字離れが背景として挙げられることがあります。ただ、読者を知ろうとする新聞社の努力が足りないのも理由として挙げられると考えています。現在の取材活動のやり方に満足することなく、常に改善し、よりおもしろい紙面を皆様にお届けできるように今後も日々努力して参りたいと考えています。

<卓話者勝又佑記様のプロフィール>

2006年3月 信州大学理学部卒業

同年4月 銀行研修社（金融機関向専門誌）入社

2008年4月 中部経済新聞社入社

2011年4月 同社刈谷支局に配属

### 今週の出来事

皆既月食の連続写真（Tanikawa Plan-net より）



<月食の進行時刻> 12月10日～11日

（国立天文台）半影食の始まり 10日 20時 31.8分 部分食の始まり 10日 21時 45.4分 皆既食の始まり 10日 23時 05.7分 皆既食の最大 10日 23時 31.8分 皆既食の終わり 10日 23時 58.0分 部分食の終わり 11日 01時 18.3分 半影食の終わり 11日 02時 31.7分